

[dōnk]

DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418

418, Komei-cho Tsu-shi

TEL 059-226-2766

FAX

N°95 septembre 2012 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

三重日仏協会 創立25周年記念総会行事

ジャンヴィエ総領事夫妻招いて盛大に レセプションに三重県知事らも列席

創立25周年を記念する2012年度総会は、7月21日津市のプラザ洞津で開催、定期総会では理事会提出の議案を原案通り承認した後、記念イベントに移りました。今回は在京都フランス総領事館からフィリップ・ジャンヴィエ・カミヤマ総領事ご夫妻をお招きし、まず「総領事を囲んで」と題するトーク・イベントを開催、日仏関係のさまざまな問題にわたって総領事と会員代表、参加者の自由な話し合いが展開されました（2面参照）。このあと恒例の「パリ祭」レセプションには、本会発足以来はじめての来賓として鈴木英敬三重県知事や、津市の葛西豊一副市長も列席され、本会の25周年への祝詞をいただくとともに、当地とフランスの今後の交流について抱負をのべられました。レセプションには留学生たちをふくむ在県のフランス人も多く参加し、楽しい談笑が続いていました。

総領事夫妻はこのあと協会スタッフらと二次、三次の「反省会」にもお付き合いいただき、その気さくで魅力的なお人柄をアピールされました。

翌22日、総領事ご夫妻は津市千歳山の「石水美術館」で龍泉寺由佳学芸員（本会会員）の案内で展示中の浮世絵や川喜田半泥子の作品を鑑賞、さらに三重県立美術館を訪れて井上隆邦館長らと懇談されたあと、大相撲名古屋場所千秋楽のフランス杯授与に向かわれました。



総領事夫妻へ鈴木敬子会員から記念品を贈呈

記念ディスカッション 〈総領事を囲んで〉

<Autour du Consul Général>

三重日仏協会設立25周年記念総会に、フランス総領事のジャンヴィエ氏をお招きした。今回は例年の記念講演に代わって、総領事を中心としたパネルディスカッションのような形で自由な話し合いを進めようという案が決まっていた。

コーディネーターは三吉研一先生、パネリストはグットマン先生（兼通訳）、武田治美先生、矢野の三名。総領事は挨拶の中で、30年前の婚約時代に奥様とともに伊勢志摩を訪れた思い出を語られたあと日仏の文化交流に触れ、フランスの若者たちの間で、あらたに日本文化への関心が高まっていることを話された（マンガ、アニメ等）。総領事の奥様は日本人で、会場の前列でにこやかに聴き入っておられた。ご夫妻の〈なれ初め〉の質問から入り、会場からの質問もまじえて、終始和やかな雰囲気ですディスカッションが進んだ。

三重日仏協会設立記念総会（1987年）の写真がスライドで提示され、その中に三重県立美術館で講演する若き日のオギュスタン・ベルク氏（現在、フランス社会科学高等研究院教授）の姿があった。フランス滞在が長かった武田先生は、東日本大震災を心配してフランス人の親友から届いた手紙を紹介。〈日本人の辛抱強さにあらためて感動しています。日本人ならきっと復興できると信じています。困ったらいつでもホームステイに来てください〉——この文面には心打たれた。会場には幾人かのフランス人留学生（三重大学）の姿があり、海外に留学する日本人学生が減少していることに話題が移った。「フランスでは、大学課程に半年から一年の海外留学を奨励する制度がある」というジャンヴィエ氏の発言に、前列の内田会長（三重大学学長）が大きく頷いていた。フクシマ原発事故にも話題が及んだ。フランスは発電の約80%を原子力に依存しているが、新政権は依存度を下げる方針を打ち出している。総領事は「安全管理には協力を惜しまない」と述べられた。東日本大震災に苦しむ日本に対して「両国は、心情を共有できる」という言葉が心に残った。

（文責 矢野 隆嗣）





本会員関連の新刊書紹介



■ 中島世津子・ダメモ / 素描<DESSIN>

発行所/株式会社用美社/3,300円(税込)

松阪市在住の画家でジャン・フランソワ・ダメモ夫人の世津子さんが、1980年代パリのエコール・デ・ボザール在学中、20代半ばに描いた「素描ノート」を再構築され、このほど出版されました。

■ 佐伯 晋 / 『白い海へ』

発行所/鳥影社/1,500円(税込)

本会理事で外科医師の矢野隆嗣さん(津市)が、佐伯晋のペンネームでこの約6年間に、所属する同人誌に書いてこられた短編小説など10編を所載。



<大阪文学学校の同窓生でつくる「あるかいど」(大阪府)は45号で「東日本大震災」の特集を組んだが、そこに発表した「三つの髑髏の物語」を中心に近作十編をまとめた「白い海へ」の作者も外科医。詩人・八木道雄を描いた「森の中へ」など、モデルのある作品が多くて親近感を覚えるが、ブッキッシュな作品は、処理の冴えを見た>

(中日新聞8.29—中部の文芸—清水 信)

■ 吉村英夫 / 『山田洋次と寅さんの世界』

発行所/大月書店/1,890円(税込)



本会会員で、すでに山田監督や寅さんに関する著書も多数ある映画評論家の吉村さんが、いままた世に問う「困難な時代を見すえた希望の映画論」。

<葛飾柴又「とらや」のにぎやかな家族と地域の人情喜劇、その笑いの力を自殺と孤独死が続く無縁社会変革のカギに使えないかと訴える。特に、山田洋次監督はなぜ「家族」映画作りが好きか、の謎解き。…> (中日新聞8.26書評欄、吉田 司)

財政立て直しへ 会費納入にご協力を!

今年度総会の決算報告では、2011年度の会費納入率が著しく低下しており、このままでは活動規模の縮小が心配されます。事務局では収入を増やす事業計画も検討していますが、健全な会運営のためにはまず会費の納入が欠かせません。ご面倒ですが同封の書類によって年会費(1年3,000円)を振り込みいただきますようお願いいたします。

催し物案内

9/15(土) 第1回 世界のNPO・地域コミュニティトーク グットマンさんが講演『フランス流ソーシャル活動』

日時 9月15日(土) 17:00~19:00
場所 みえ県民交流センター (津駅前 アスト津3階)
ゲスト ティエリー・グットマンさん (三重大学人文学部准教授)

※だれでも無料で参加できますが、定員30名のため事前にみえ市民活動ボランティアセンター
059-222-5995へ申し込みが必要です。

9/30(日) 「若き歌の親善使節 来日公演Ⅱ」 シャンタル・ナース(ソプラノ)ほか コンサート

日時 9月30日(日) 開演 15:00
会場 四日市市 ホール・ムーシケ (第一楽器ビル4階)
入場料 全自由席 2,000円

※シャンタル・ナースさんはカナダ・ケベック出身、国際的に活躍する実力派のソプラノ歌手で当日はフランス歌曲やガーシュインの作品を。ピアノ伴奏は三重大学人文学部でフランス語を学んでいるピアニスト・吉野りん子さん。

(問い合わせ: 059-353-7361 第一楽器)

11/5(月) 宗次ホール ランチタイム名曲コンサート 〈フルート・ハーブの小さな旅路〉

本会会員の荒木まどかさん(ハーブ)が出演、マリー・アントワネットが作曲したと伝えられる『それは私の恋人』ほかを演奏します。

日時 11月5日(月) 11:30から約1時間
会場 宗次ホール (名古屋市中区栄4丁目)
入場料 全自由席 1,000円

※問い合わせ ・宗次ホール 052-265-1718 ・荒木さん 059-225-8962

なお、津市お城ホールでの 荒木まどかハーブ・リサイタル は9月29日(土)14時からです。

11/10(土) 国際理解セミナーⅡ SIFA 鈴鹿国際交流協会 草の根交流から見たフランスのほんとの魅力 (仮題)

日時 11月10日(土) 10:00
会場 鈴鹿市 ジェフリーすずか
講師 井土真杉 (三重日仏協会)

11/28~12/2 鈴木敬子×リリュール仲間 展/本のさまざまな装い Ⅱ

期間 11月28日(水)から12月2日(日) 10:00~17:00 (最終日は16:00まで)
会場 三重県立美術館県民ギャラリー

※会期中、ノート作りのワークショップも開催

注:リリュール reliure, 製本, 装丁。フランスでは古来、出版の際は簡単に綴じた本を、持ち主の好みによってプロの技術者に製本, 装丁させて収蔵する習慣があり、鈴木さん(本会会員)は日本では数少ないその専門家。